

1. 問題とは、目標と現状のギャップであり、解決すべき事柄である。
2. 問題は立場によって異なる。
3. 立場によって、目標と制約条件が異なる。
4. 問題の基本構造は、目標と制約条件によって決定される。
5. 問題ひとつに対して問題点は複数ある。
6. 問題点とは、手の打てる原因のことである。
7. 問題の構造化とは、問題の論理構造を図式モデルで表す問題形成のしかたである。
8. 問題の背景となる環境変化を事実前提、企業方針を価値前提という。
9. 前提条件は、制約条件に転化する場合がある。
10. 目標とは、実現すべき状態、期待される結果すなわち期待出力のことである。
11. 制約条件とは、入力の時点において存在する客観的事実で、手段と活動を制約する条件のことである。
12. 立場によって、目標と制約条件が入れ替わることがある。
13. 制約条件には、絶対制約と時間と努力によって変えられる一時制約があり、後者は問題点となりうる。
14. 問題の原因は、手段、活動、外乱、制約条件の中に存在する。
15. 手段とは、問題解決者が、自らの意思で行う入力のことである。
16. 単なる目標の指示は、入力ではない。
17. 自己の方針を具体化したものが、入力である。
18. 活動とは、入力から出力に至るプロセスに存在する事実をいう。
19. 活動には、目に見える現象的事実と目に見えない推論的事実が含まれる。
20. 障害とは、自らの活動の過程で生じた不手際、不具合のことである。
21. 外乱とは、プロセスの外部に生じ、活動を攪乱する不可抗力的要因のことである。
22. 外乱には、一過性のものと後遺症として残るものがあり、後者は制約条件に転化する。
23. ブラック・ボックスとは、プロセスにおける部分的未知の領域をいう。
24. ブラック・ボックスは、入力と出力の関係及び制約条件と行動の事実との関係から推論される。
25. 問題点には、権限内の問題点と権限外の問題点とがある。
26. 当面策は、現状に対する応急処置であり、問題の処理に当たる。
27. 根本策は、問題の原因（問題点）に対する抜本的処理に当たる。
28. 根本策は、戦術レベルの対策と戦略レベルの対策に分かれる。
29. 戦術レベルの対策とは、権限内の問題点に対する対策であり、戦略レベルの対策とは、権限外の問題点に対する対策である。
30. 意思決定とは、複数の対策（代替案）を評価し、実施の優先順位を決めることである。